

明治草創期の学校教育に多くの斗南藩士族が貢献

旧市内の明治の歴代小学校校長（首座・教育長）のうち、旧斗南藩士族に◎印を付けています。

- ▶**三本木小学校**…◎主長・飯河光義（明治6年～）、◎首座・桜井政衛（明治11年～）、◎教育長・篠田寅三郎（明治15年～）、◎初代校長篠田寅三郎（明治18年～）、2代・長谷川力太郎（明治25年～）、3代・高屋常太郎（明治31年～）、◎4代・中山留五郎（明治35年～）、◎5代・栃内八次郎（明治39年～）、◎6代・篠田龍夫（明治40年～）
- ▶**米田小学校**…◎初代・山川源吾（明治8年～）、◎2代・根岸橘四郎（明治15年～）、◎3代・佃清八（明治20年～）、◎4代・遠藤軍治（明治22年～）、5代・工藤良太郎（明治41年～）、◎6代・竹内栄（明治42年～）
- ▶**伝法寺小学校**…◎首座・西村八治郎（明治10年～）、◎首座・吉川栄吾（明治20年～）、◎初代・鈴木豊吉（明治21年～）
- ▶**相坂小学校**…◎首座・柴高源右衛門（明治7年～）、◎教育長・篠田寅三郎（明治14年～）、校長事務取扱・江渡憲弥（明治16年～）、初代・加藤源三（明治18年～）
- ▶**藤島小学校**（明治22年相坂小に合併）…◎初代・桜井政衛（明治7年～）、◎2代・吉川栄吾（明治18年～）、◎3代・原田軍治（明治20年～）
- ▶**下切田小学校**…◎教員・赤沢賢山（明治9年～）、首座・気田庄七（明治12年～）、◎初代・田口常盤（明治23年～）
- ▶**上切田小学校**…◎首座・服部重成（明治12年～）、◎首座・渡辺忠之進（明治15年～）、初代・中村理蔵（明治34年～）
- ▶**滝沢小学校**…◎首座・北口泰鏡（明治8年～）、◎首座・小松平八郎（明治12年～）、◎首座・助川大治郎（明治15年～）、初代・今泉善六（明治34年～）、◎2代・船越長国（明治37年～）、3代・今泉善六（明治38年～）、4代・滝沢景吉（明治43年～）
- ▶**中瀬小学校**…◎初代・渡辺多門（明治13年～）、◎2代・玉木憲八（明治20年～）、◎3代・二瓶勝（明治39年～）
- ▶**赤沼小学校**…◎黒小路只輔（明治8年～）、◎初代・井上龍太郎（明治17年～）、◎2代・相田寛造（明治37年～）
- ▶**早坂小学校**…◎鈴木豊吉（明治19年～）、◎遠藤保三郎（明治22年～）、佐藤林治（明治24年～）、円子省三（明治25年～）、小笠原定雄（明治29年～）
- ▶**洞内小学校**…◎首座・吉田伊八（明治11年～）、首座・松尾健三（明治17年～）、首座・田中弘巳（明治25年～）、初代・首座・蛭名正幸（明治29年～）、2代・首座・沼尾虎三（明治34年～）、3代・高田原勇治郎（明治41年～）、4代・伊東真吉（明治45年～）
- ▶**深持小学校**…◎雇・浦田寛平（明治13年～）、◎雇・山川源吾（明治15年～）、七等訓導・高坂清助（明治16年～）、訓導・中野渡寅之助（明治18年～）、石坂友四郎（明治22年～）、準訓導・中野渡寅之助（明治24年～）、高坂清助（明治34年～）

前述のとおり、明治5年に学制が公布されると、市内の各地区に小学校が開校されます。そのため、小学校に教師として赴任した斗南藩士はかなりの数にのぼりました（左の覧を参照）。

学制は、欧米を見習った実用の知識才芸を奨励し、内容

青森県は7大学区に属し、第14中学区、17中学区が設けられました。上北郡と下北郡



左の写真は明治頃の三本木小学校。右上の写真は正門のあった場所。現在の元三浦輪業（左）と元堀内眼科（右）の道路部分にあった（西三番町）。奥が学校跡地

の県が合併して、9月に現在の青森県となります。その後、藩知事の松平容大も東京に移住し、斗南藩士族は、不毛な斗南の地に希望を持って、多くが全国に散っていきました。

しかし、この地に残った藩士たちは、上北地方や下北地方の政治・経済・教育の分野に進出し、その地位を確立して大きく貢献していきます。

は、大中小学区、学校、教員、生徒試業、海外留学生、学費の6項目に関するものでした。しかし、理想的な計画は地方の実情に適さず、明治12年、新たに「教育令」が公布されました。教育令も明治13年に再び改正され、これまでの「自由な方針」を改め、中央の統括による学制が推進されるようになり、教育の内容や方法も統括の方向に進むようになりました。

また、学制はフランスの制度に習って学区制を採用しました。全国を7大学区に分け、各大学区を32中学区、各中学区を210小学区とし、学区ごとに小学校や中学校が設けられました。



三本木小学校初代校長・篠田寅三郎氏（明治18年～） 2代校長 長谷川力太郎氏（明治25年～） 3代校長 高屋常太郎氏（明治31年～） 4代校長 中山留五郎氏（明治35年～） 5代校長 栃内八次郎氏（明治39年～）



6代校長 篠田龍夫氏（中段左から5人目）

公立学校草創期 明治の学校教育

写真の肖像画は明治初期の三本木小学校の校長先生たち。3ページ左表のように、各学校には斗南藩士（旧会津藩士）出身の教員が多く、本市の学校教育の草創期を築いた

三本木小学校は明治5年の学制公布（※1）の翌年の明治6年に創立されました。その後、明治13年頃までに次々と市内各地に小学校が創立されました。

このときの小学校の教員の

明治以降、近代国家の第一歩を踏み出した日本は、明治期において国の基本的な形を築き上げてきました。教育では明治5年の学制公布、義務教育の導入、学校の設立など取り組みが行われました。明治が始まって150年。今号は明治草創期の本市の学校教育の歴史をたどって見ました。

本市で一番古い 三本木小学校

訪問したのは、三本木小学校。正面玄関の上には「祝創立144周年」の看板が飾られていました。教頭先生にたずねてみると、「140周年記念式典のときから、毎年看板の数字を替えています」とのことです。校内の杉の子資料館には明治期からの貴重な学校資料が展示されています。興味を引いたのは飾られている明治期の初代校長から、大正、昭和、平成にいたるまでの歴代校長の肖像画でした。

今年には明治が始まって150年。明治期の本市の学校の歴史を紹介します。

幕末に京都守護職として活躍した会津藩主・松平容保は戊辰戦争で新政府軍に徹底抗戦したため、明治元年所領60万石を没収されて謹慎の身となりました。明治2年、会津藩士族が当地方の発展に貢献

多くは、斗南藩士族でした。では、なぜ斗南藩士族が本市の明治草創期の学校教育に関わってきたのでしょうか。その時代をたどって見ました。

▼明治6年…三本木小学校（三番小学）▼明治7年…中和小学校（奥瀬小学校）、法量小学校、布施小学校（大不動小学校）、藤島小学校▼明治8年…沢田小学校、滝沢小学校、赤沼小学校、相坂小学校、米田小学校▼明治9年…切田小学校（下切田小学校）▼明治10年…伝法寺小学校▼明治11年…洞内小学校▼明治12年…外ノ沢小学校（上切田小学校）、牛鍵小学校（早坂小学校）▼明治13年…深持小学校、豊良小学校（羽立小学校）

津松平家は再興を許され、領地として3万石を提示され、領地が広く、農業に有利と思われる南部藩領北奥（三戸郡二戸郡、上北郡、下北郡）への移住を決定しました。

明治3年4月、会津藩は五戸旧代官所に藩庁を設置。この頃、三本木原開拓を進めていた七戸藩大参事の新渡戸伝翁の支援により、会津藩士族は、明治3年から6年にかけて三本木にも大勢入植しました。しかし、この地方は火山灰土の風雪激しい不毛の土地で、刀を鋏に持ちかえた藩士たちの開拓は並大抵の苦労ではありませんでした。

その後、藩庁が五戸から田名部（現むつ市）に移ります。新しい藩名は「斗南藩」と命名しました。領地は七戸藩領と八戸藩領を除く上北地方と下北地方で、藩士と家族の1万7000人余りが移住を完了しました。

明治新政府は移住後の斗南藩士族に救助米を与えたり、救助金を支給して移住を支援しました。

明治4年7月、政府は廃藩置県を実施。斗南藩は斗南県となり、その後、周辺5地区

は8校。上北郡には、上北中学校（教員1人・生徒数39人・七戸村に設置）が創立されました。

明治20年になると、文部省高官の学校視察がたびたび行われます。明治21年に、森有礼（旧薩摩藩士）文部大臣が、実習教育で特色のある三本木小学校を視察し、教育内容を高く評価しました。当時の校長は篠田寅三郎氏。篠田校長は教育理念について森文相と臆することなく議論を交わし、旧会津藩の気骨を見せたといえます。

本市は「夢・希望・志の実現に向け、生きる力を育む学校教育」を基本方針とし、「日本一を目指した特色ある教育活動事業」や「小・中学校の学力向上事業」を推進しています。子どもたちに、夢・希望・志を育んできた明治期の教員たち。彼らの教育は、今日の学校教育に脈々と息づいています。

「夢・希望・志」が息づく本市の学校教育

（※1）学制…明治5年8月に大政官により公布された日本初の教育法令。
（※2）尋常小学校…明治維新から第二次世界大戦勃発前の時代の初等教育機関。